

話題提供



グローバル時代の人材育成 Human Capital Development in the Global Age

小林久志 (Hisashi Kobayashi)

- プリンストン大学
シャーマン・フェアチャイルド名誉教授
- 独立法人情報通信研究機構
特級研究員 (非常勤)

六甲会議 2010

神戸ポートピア・ホテル. 04/17/2010

話題: Topics for Discussion



- **Leadership:**
リーダーシップ
- **Creativity and Entrepreneurship:**
創造性と企業家精神
- **Philanthropy and Gift-Giving:**
慈善事業と寄付行為

リーダーが何故育たないのか？



1. 社会・文化的要因

- 戦後、極端な平等主義が定着し、リーダーを求める気風が欠如。
- 牽引力、決断力に富む実力者よりも、コンセンサス型の長老を好む。
- 従って、日本にはフィギュア・ヘッド，或いはチア・リーダー的なトップが多い。
- 大学・企業等に於ける人事評価も表面的、形式的で、若い優秀な人材を登用せぬ。
- 何事にも、周囲、他人とのバランスを最優先。

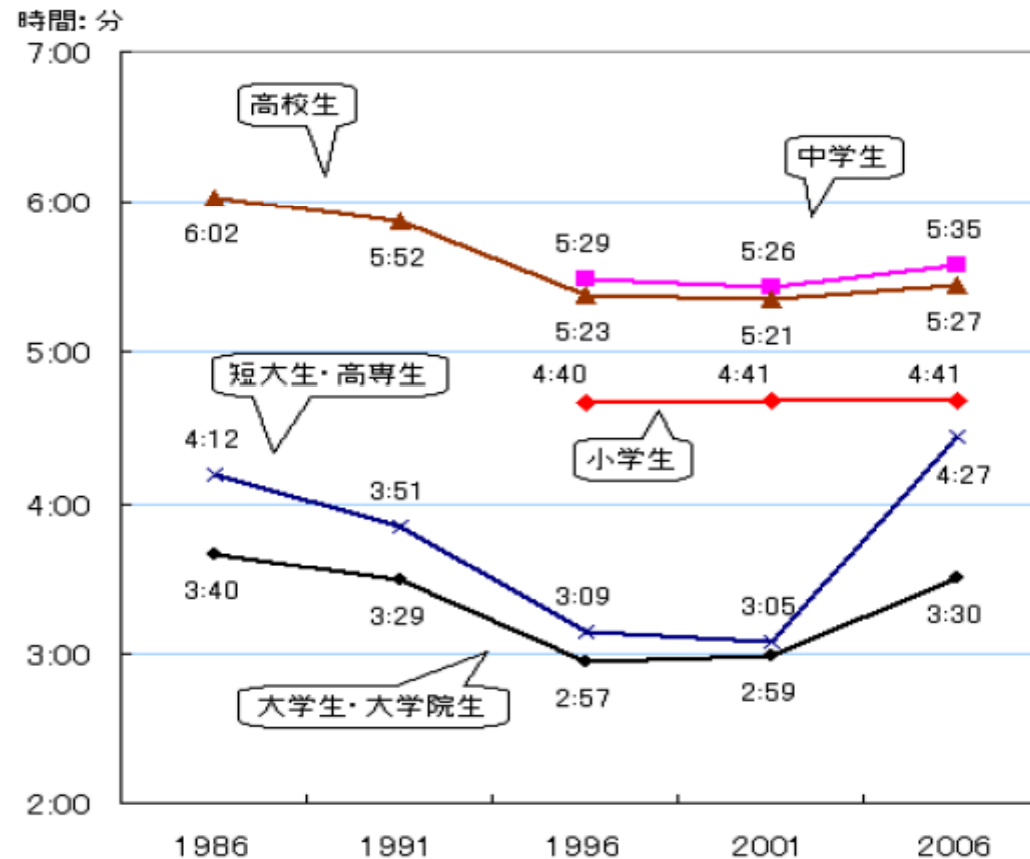
2. 教育・トレーニングの問題

- 独立した思考能力を育くむ努力が欠如。
- 発表能力・コミュニケーション・スキルへの関心の低さ。
- 批判する能力に欠け、論理的に議論する能力が欠如。
- 勉強しない大学生。それを許容する大学及び社会。
- 惨々たる英語教育。10年学んでも、話せない、書けない大多数の日本人。

勉強をせぬ日本の大学生



在学生の学業時間の推移(週全体の1日平均)

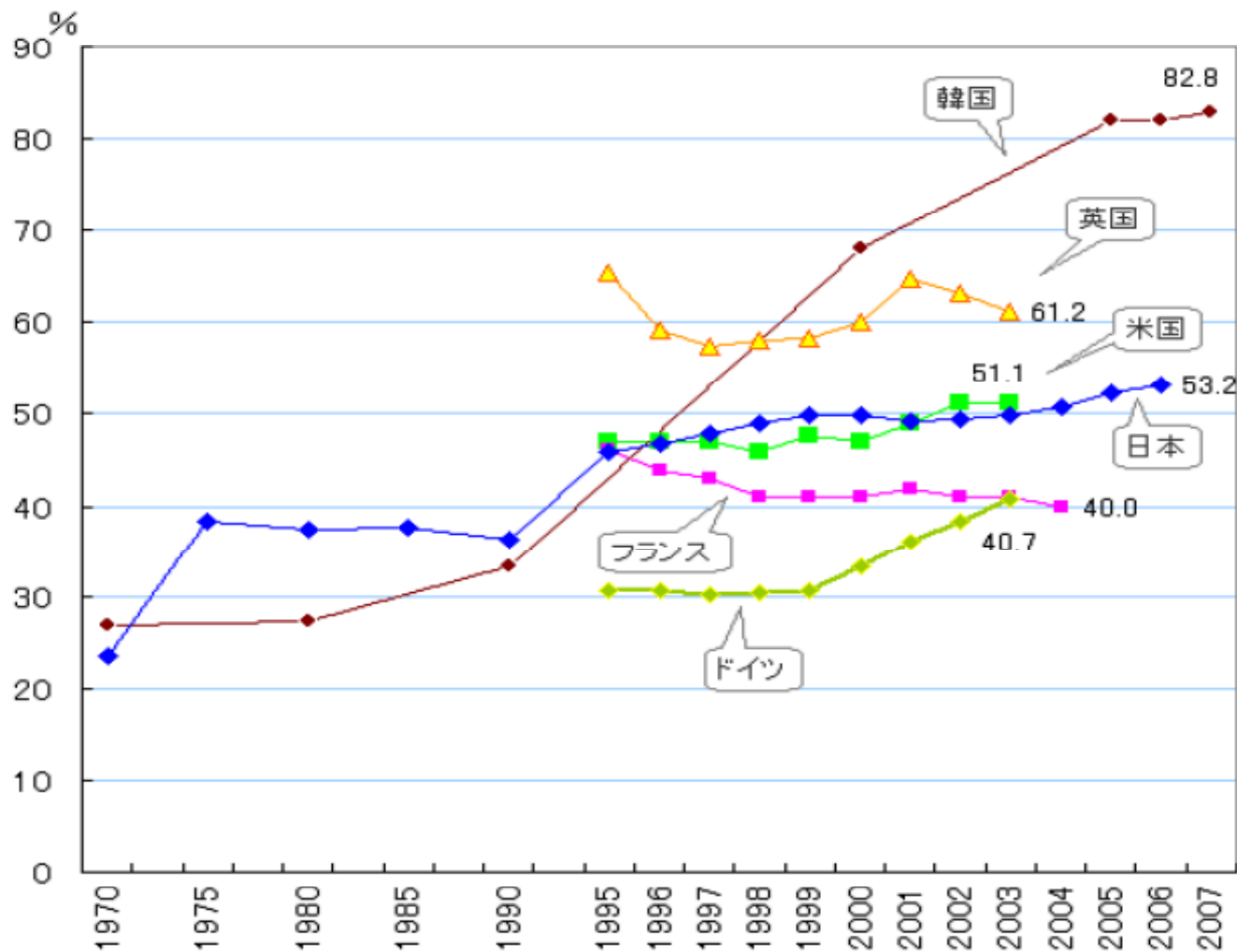


(注) 小学生は10歳以上のみ。学業時間には予習復習、塾関連を含む。
(資料) 総務省統計局「社会生活基本調査」

大学進学率の国際比較



大学進学率の国際比較



惨々たる英語教育



TOEFL (Test of English as Foreign Language)

日本はアジア 27 国の中で最下位。世界中でも日本より成績が悪いのは、アフリカや中近東に二三あるのみ。(120点満点)

IBT TOEFL(2005-2006)の結果(アジア)

国名	受験者数	total score
シンガポール	144	100
インド	23,750	91
マレーシア	920	89
フィリピン	5,882	85
パキスタン	2,307	83
スリランカ	356	83
キルギス	118	82
バングラデシュ	649	80
香港	2,763	80
インドネシア	1,875	80
カザフスタン	656	80
ウズベキスタン	320	80
アゼルバイジャン	191	78
タジキスタン	35	77

※IBT TOEFLは120点満点となっている。

国名	受験者数	total score
中国	20,450	76
トルクメニスタン	70	74
アフガニスタン	209	73
ミャンマー	98	73
大韓民国	31,991	72
タイ	3,886	72
カンボジア	134	71
マカオ	170	71
台湾	10,022	71
ベトナム	2,320	71
朝鮮民主主義人民共和国	1,270	69
モンゴル	438	66
日本	17,957	65

出典: Education Testing Service (ETS) 「Test and Score Data Summary for TOEFL® Internet-Based Test」(2005年9月-2006年12月)

グローバル時代に要求されるリーダーの資質・能力

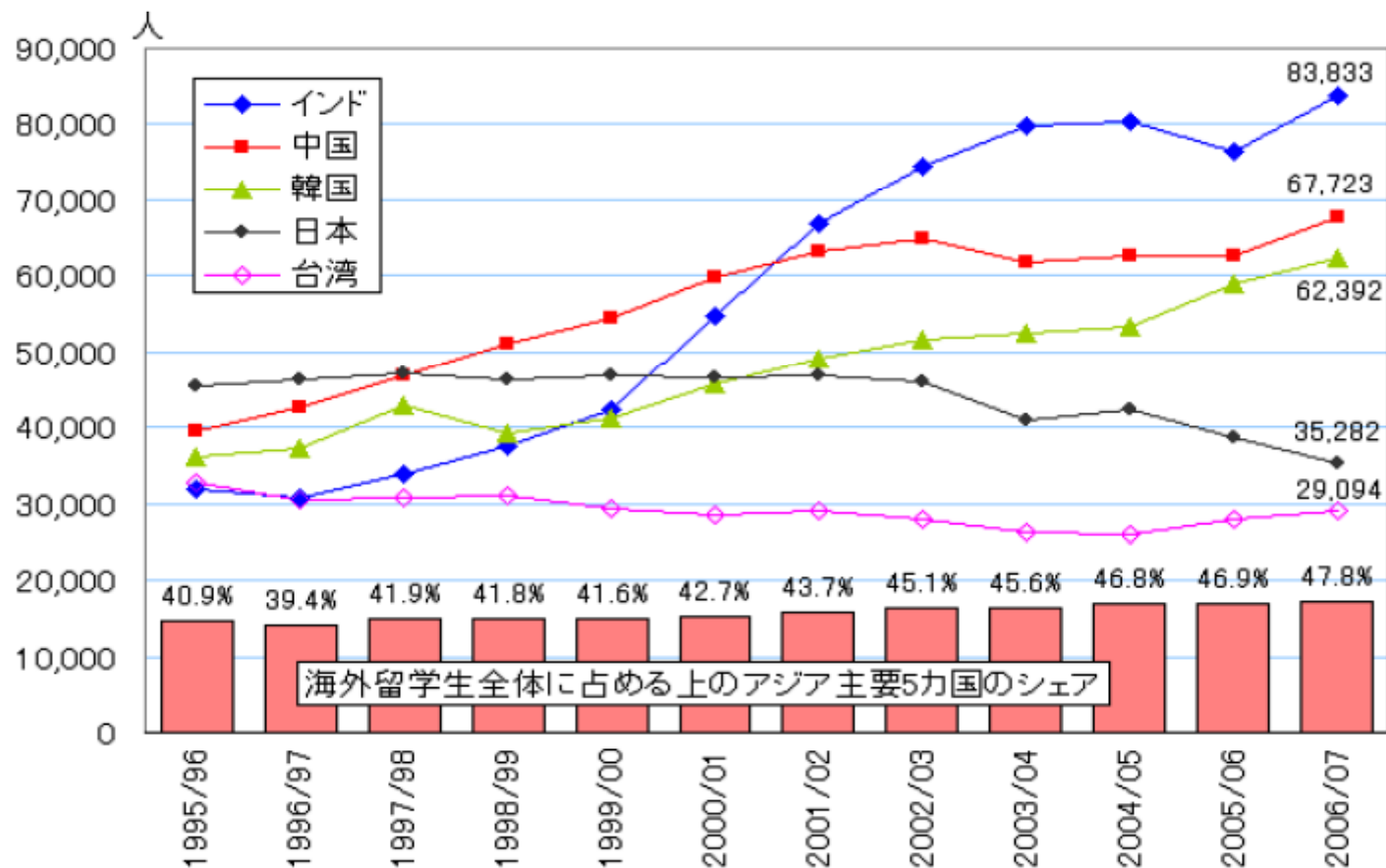


- 最新の情報を的確に判断し、英断できるエネルギーが豊富な若い人材。
 - 大企業も判断と方向を間違えれば、突然死。
 - 部下に判断を委ねるトップは引き下がるべし。
- 国際的に活躍した経験を持ち、強力な人的ネットワークを作り活用できる人材。
 - 翻訳情報に頼れる時代は終焉。
 - 台湾企業の活躍の背景。

米国に於けるアジア留学生の推移



米国におけるアジア留学生の推移

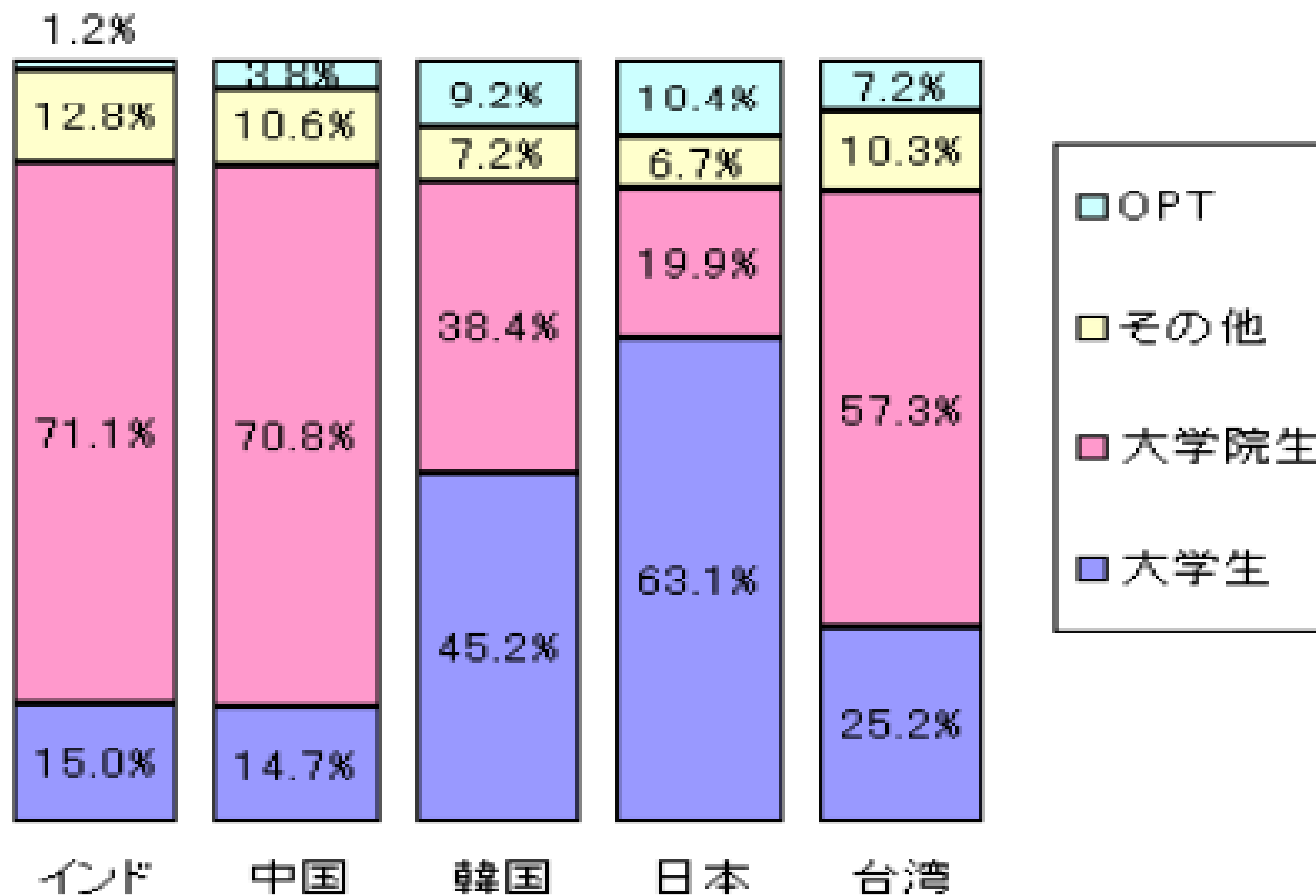


(資料) Institute of International Education, "Open Doors" (HP)

米国の大学院に留学する日本人は少ない



留学生のアカデミック・レベル(2006/07年)



創造性に富む人材の育成



- 悪平等主義の風潮が英才教育を敵視する。
- 「ゆとり教育」大失策の反省は？
- 大学を「知の鎖国」から開放せよ。
アイヴァン・ホール「知の鎖国:外国人を排除する日本の知識人産業」
(鈴木主税訳) 毎日新聞社、1998.
- 博士教育の無償化を推進せよ。

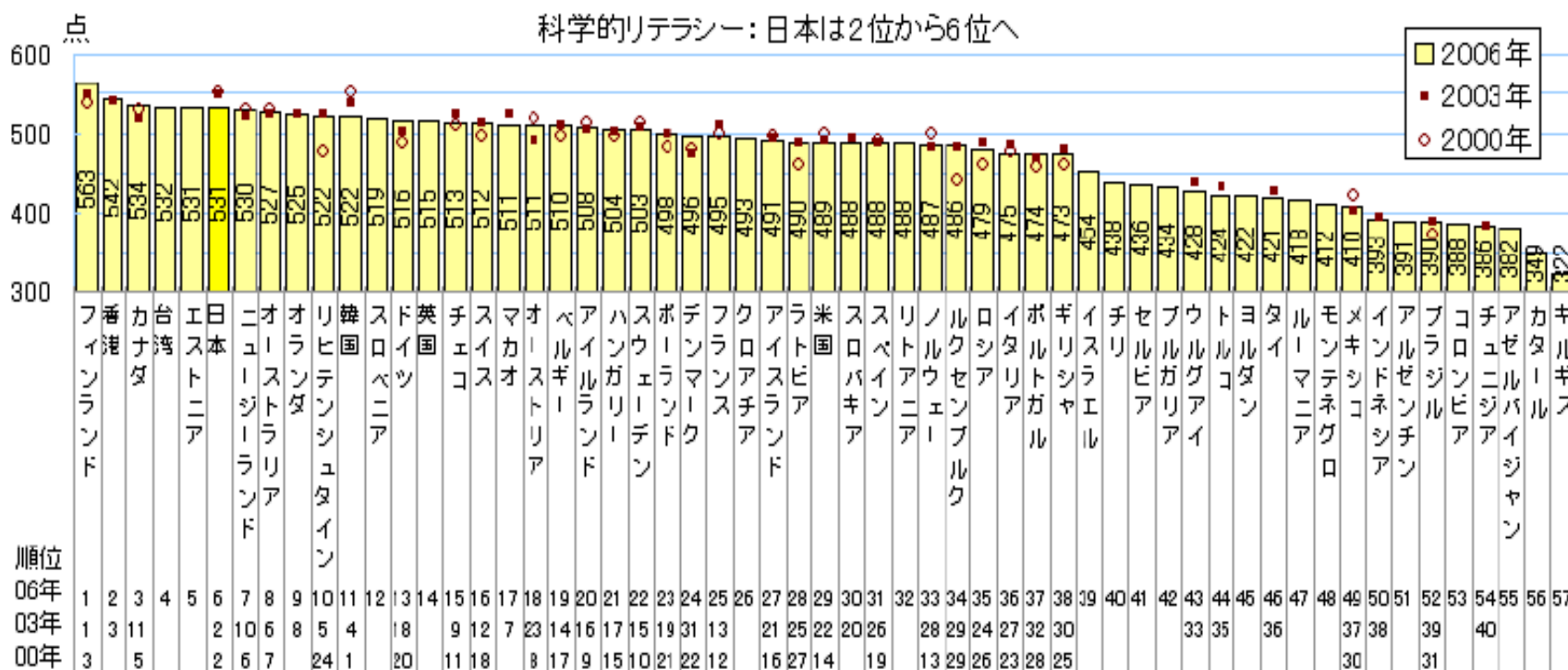
学力の国際比較：OECDのPISA調査

(PISA: Programme for International Student Assessment)



科学的リテラシー

学力の国際比較(2000年、2003年、2006年)



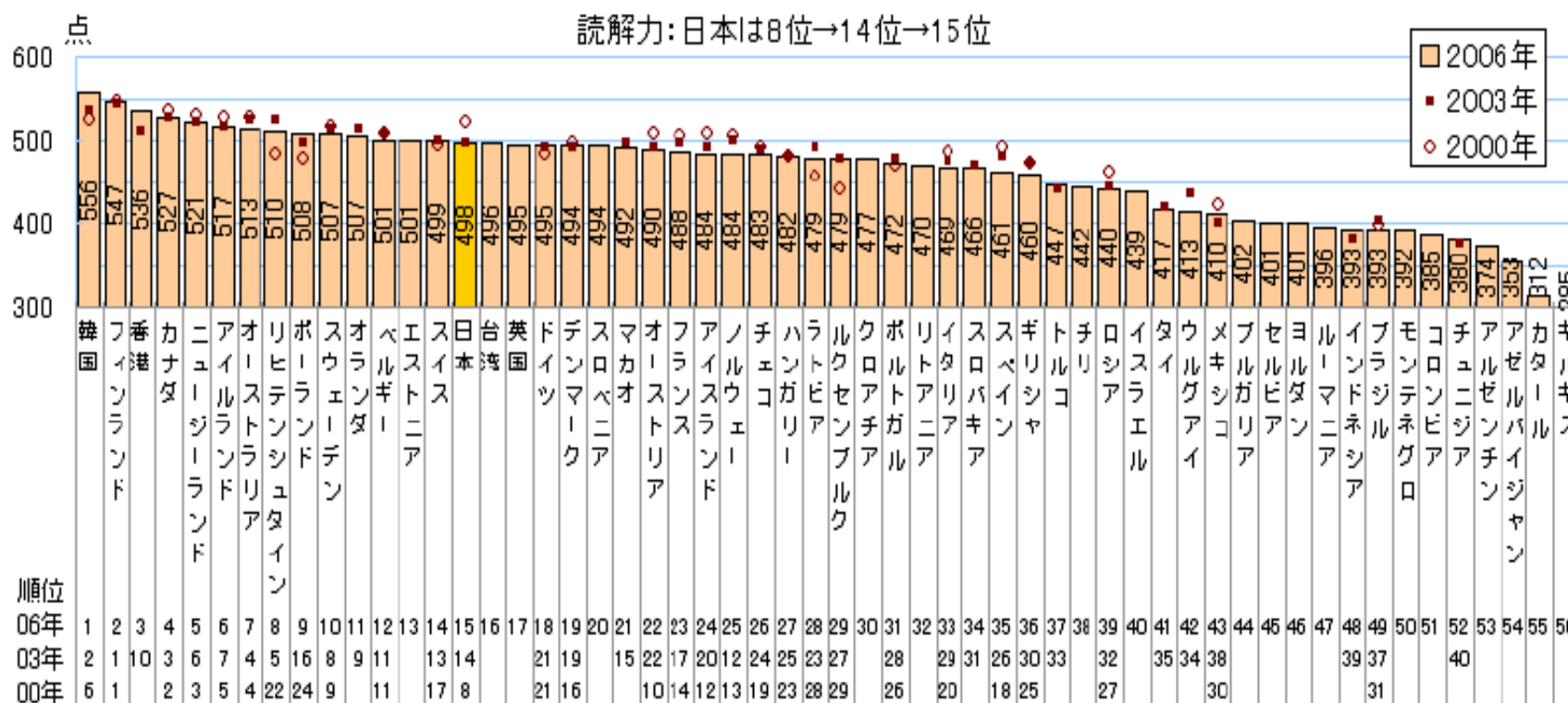
(注) 2006年調査は57カ国(OECD30カ国、非加盟27カ国)から約40万人の15歳児(高1)が参加。読解力は米国を除く(問題不備で)比較対象は00年の31カ国、03年の40カ国から増加。

学力の国際比較：OECD の PISA 調査

(PISA: Programme for International Student Assessment)



読解力

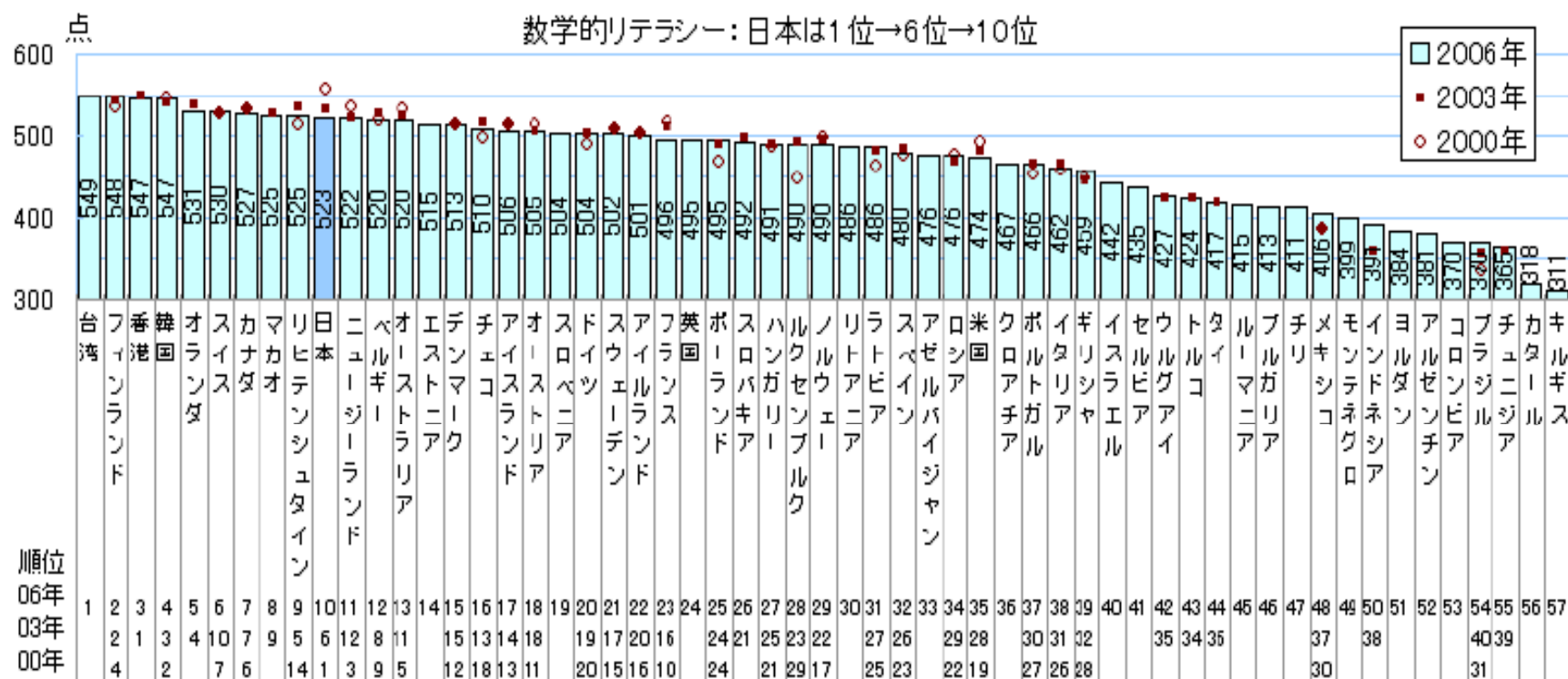


学力の国際比較：OECD の PISA 調査

(PISA: Programme for International Student Assessment)



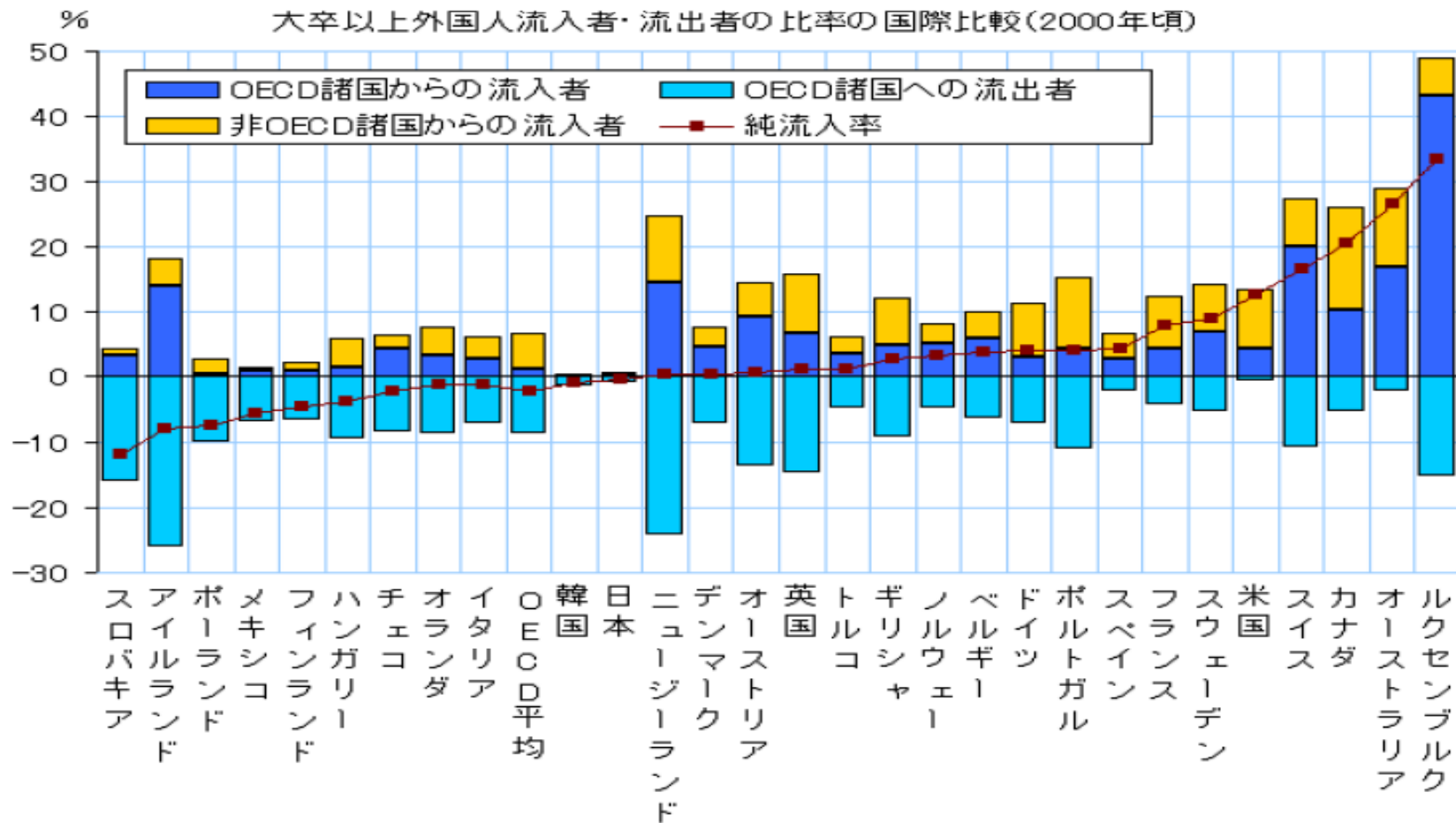
数学的リテラシー



高学歴人材の国際流動で日本は最下位



高学歴人材の国際流動



(注) 大卒以上人口に占める外国出身者比率等である。純流入率の低い順に並べてある。

(資料) OECD Factbook 2007

企業家精神の育成



- 日本の若者を「大会社のサラリーマン」志向から開放せよ。
- 米国の大学では、”How to start your own company?” の類のコースが大人気。
- 日本では、実績のある講師が少ない？
- 失敗を許容する社会風土、移動度の高い社会を。
- 米国では、small businessが多くのnew jobsを作ると考えられている。

- 若い男子の内向き志向。その原因と解決策は？
- 外国人の活用。留学生の1割しか日本に就職しない？ 日本企業の閉鎖性？
- 女性の活用、進出は改善されているか？

人材育成には、資金が必要



- 現行の教育・研究行政は予算額のみならず、その配分に問題がある。
- 人材育成への無関心（前述の英才教育、博士教育の問題）
- 卒業生、企業の大学への寄付への参加率の低さと、額の少なさ。学閥はあっても、母校愛に乏しい日本社会を変えねばならぬ。

寄付をしない日本人



日本は米国より寄付額が一桁以上少ない。

Charitable contributions/year

米国： 22兆円

日本： 7千億円 (or 3千億円?)

即ち、米国の30分の1。

出典： 「クローズ・アップ現代」 3月30日放送
(朝日新聞 4月9日)

一人当たりの年間寄付額：

米国： 約7万2千円(人口3億5百万人)

日本： 約5千5百円(人口1億2千7百万人)

アメリカの寄付文化



- 70-80 % の米国家庭が金銭的な寄付をする。
日本では2%？
- 平均的な米国家庭は年 \$1,000 以上寄付する。
- 大多数にとって、税金対策とは無関係。
- 信仰心のある人はsecularists の4倍寄付をする (\$2,210 対 \$642)。 ボランティアの仕事も2倍する。

Source: http://www.american.com/archive/2008/march-april-magazine-contents/a-nation-of-givers/article_print

- 米国の大学では大学院卒業生の寄付参加率は学部卒業生より低い。

基金資産に乏しい日本の大学



ハーバード大学の資産 (Endowments) 350 億ドル

プリンストン大学 158 億ドル

東京大学 4.5億ドル

出典: 東京大学広報誌: 「淡青」 2008年10月号

	学生数 (学部 +大学院)	教官数
ハーバード	19,100 (12,400 + 6,700)	2,400
プリンストン	7,200 (4,900 + 2,300)	800
東京大学	27,800 (14,100 + 13,700)	1,300

企業も日本の人材育成に貢献せよ。



- 企業も (自社のみならず)日本の人材を育てる責務がある。
- 博士課程の充実と定着に積極的姿勢を持て。
- 博士課程の学生の為の奨学金。
- 寄付講座。
- マッチング・ファンド。